

1年ほど前、関東地区で開催されたあるグリーンキーパー研修会で、「コース管理ソフト」が紹介されていた。

このところ、その類の取材をしていなかったの、「最近ほどのような機能を有しているのか」と耳をすませたところ、実に様々な能力を持っているようだった。

「パソコンの活用」で即連想するこの1つに各種データの整理・分析がある。これについて筆者は、苦い経験がある。今から40年以上前のことだが、取材で米国に出かけ、あるスーパージンテントに会った時、何かの話題からコース管理機器類の管理台帳を見せてもらった。

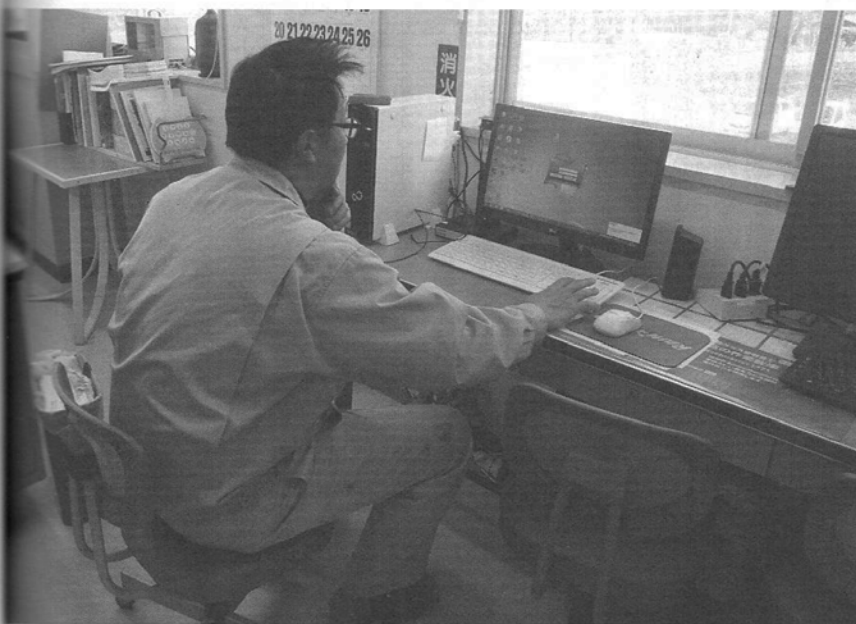
これには、管理機械1台1台に、購入時期はもちろんのこと、稼働経歴やオイル交換などのメンテナンス時期とその費用、そして修繕に要した金額などが細かく記入してあった。

そこで、「この台帳を作成する目的は？」と尋ねたところ、「機械類はある程度消耗すると、メンテナンスや修理にかかる金額が高いつき、結果として新規購入の方が安上がりになる。だが、オーナーは金を出し惜しむ。そこで、この台帳を見せ

コース管理用パソコンソフト

コース改造計画の

参考としても活用



「アルバトロス」を立ち上げる小川内キーパー

**コース管理の技術継承が今、大きな問題となっている。
その解決策の1つとして、データ蓄積を含めた
コース管理用パソコンソフトの活用がある。
福岡県北九州市の若松GCでの使用を取材してみた。**

て納得させるのさ」という答えだった。帰国して知人キーパー各氏に尋ねたが、そのような台帳管理はもちろん、発想もなかった。むしろ、「修理して大事に使う」ことを何より重視していた。確かに大事にすることは当然だが、企業として合理的な運営は必須である。だが、当時はデータ管理を行うほどの状況ではなかった。

キーボードを使わずに 数値を入力

それから40年余経た現在、管理面でどのようにパソコンが活用されているのか、その現状を前出のコース管理ソフト「キーパーアシストツール アルバトロス」で調べてみることにした。現在、18カ所のゴルフ場で稼働中である。その機能を簡単に述べると、以下のようなになる。

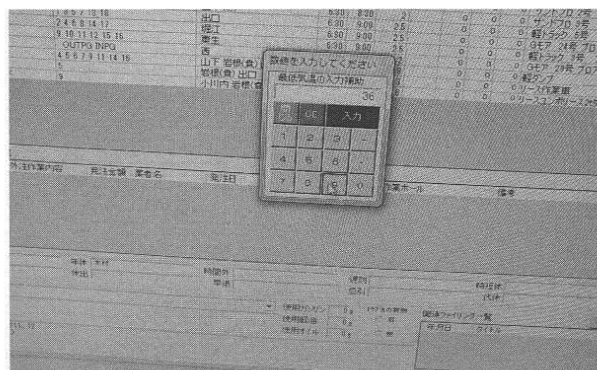
①日報（農業・機械・労務の一括管理）… 毎日の作業状況を入力することで、毎年提出が必要な農業使用報告書の作成や個々の管理スタッフの作業時間などが把握できる。また、コース管理機器類についても、稼働時間や整備状況が前出の米国のゴルフ



立ち上がったアルバトロスの画面

②コース（航空写真でコース全体を視覚的に管理）…たとえば、フェアウェイの一部で病害が発生したとすると、モニター上の航空写真にそのエリアを落とし込むことで、殺菌剤の処理面積や処理量、作業時間を予測することが可能。画面上に文字などの記入が可能ならば、付随する施工図や配管図の登録も可能だ。

③その他（キーボードなしで入力可能）…導入時に農薬・肥料・機械類



ディスプレイ上のテンキーをマウスで操作する

の基礎データを入れることで、キーボード操作が少なくなり、ほとんどマウス操作だけで済む。

マツ林伐採計画でも参考となる

そのアルバトロスを採用しているゴルフ場の1つに若松ゴルフ倶楽部（福岡県・18H）がある。導入したのは2013年だった。一時、グリーンコンディションが思わしくなくなったことがあり、その後の対策として、当時の支配人がコース管理

教育に活かすとともに、「年間作業工程表」の作成を進めたのが導入のきっかけだったそう。

年間作業工程表の作成は、各月の作業スケジュールの把握や各種作業の分類と整理など、管理スタッフに共通する知識の普及にも役立つことだろう。

これらを頭の中に入れて、若松GCを訪れ、小川内秀男グリーンキーパーにアルバトロスの操作を見せてもらった。

日報の記載内容や管理スタッフ個々人の作業状況、農薬使用報告書などがモニターに映し出されるが、既に記入項目がインプットされているのでマウスでの選択で済み、キーボード操作が少ないことが分かる。

ゴルフ場によっては、気象観測装置ウエザーステーションと管理ソフトウェアを連動させて、気温や降雨量を自動入力しているところもあるが、若松GCでは、かねてより百葉箱での測定を日報に入力している。この数値入力の際にもキーボードは不要だ。

数値入力部分にマウスをタッチさせるとモニター上にテンキーが現れ、マウス操作するだけだ。

近年、スマホの普及で若い人の中には、「キーボードを使えない」という人もいるというが、これならその心配はないだろう。

ところで、この若松GC、ただいまグリーン改造の真っ最中。1グリーン制のコブラ14面、ペンクロス4面をローヤルリンクス（007とタレイの各50%のブレンド品種）に変更するのである。今年1〜3月で造形し、4月上旬に播種、そして9月中旬にグラウンドオープンする予定となっている。

一昨年9月から昨年9月まで約1年間、007、タレイ、ローヤルリンクスを17年9月から約1年間かけてテストして、夏越しなどの結果を踏まえての採用である。

「ヤーデージの延長も含めて、18Hすべてのグリーンの改造です。なかでも、3、9、18番のグリーン位置は大きく変更しています。この改造に際して、アルバトロスの航空写真を活用してのシミュレーションは随分と役に立ちました。ここは風致地区なので、林帯の伐採については工事許可が必要で、その伐採面積や本数の把握ができました」（小川内キーパー）

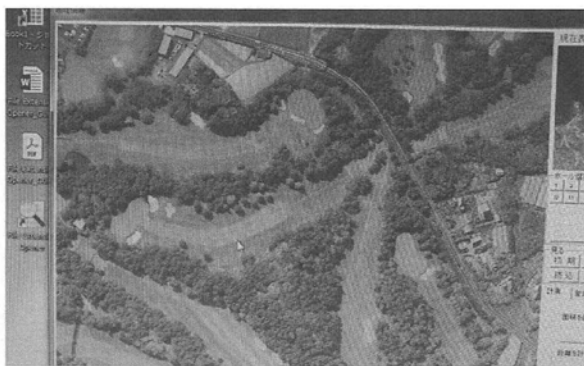
シミュレーションということでは、

ティーイングエリアの新設に当たっても、この機能や役立っている。このところ、女性やシニア、初心者向けのティーの造形が多くなっているが、若松GCでもゴールドティーと称して、現在造成中の10番を含めて、これまで10面を手がけている。その攻略ルートのシミュレーションにも力を発揮したという。

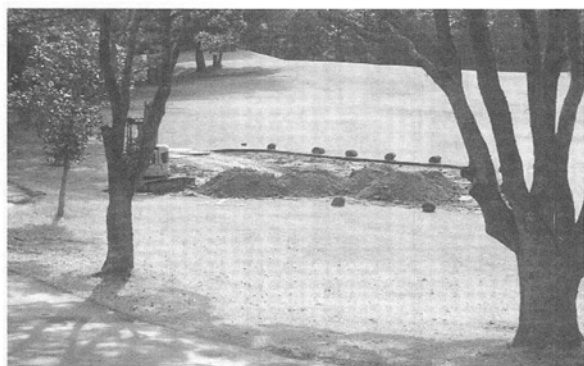
「今回のグリーン改造に伴って、各ホールにテンポラリーグリーンを新たに造成したところ、ティーからグリーンまでの距離が短くなったことから、女性メンバーから「ハーフ37で回れたので、面白かった」などと、喜ぶ声が出ています。テンポラリーグリーンまでの距離が210ㄻ220Yのパー4もあるので楽しかったのでしょうか。現在造成進行中のゴールドティーもお役に立つと思います」（小川内キーパー）

コース管理棟でアルバトロスの操作を体験してから、グリーンやティーイングエリアの改造中のコースに案内してもらった。

先ほど、女性ゴルフファーがテンポラリーグリーンで「スコアがよくなった！」と喜んでいたとのことだが、このテンポラリーグリーンのコンド



ディスプレイ上の9番H



9番Hで造成中のゴールドティー

イションは上々だった。当然、改造グリーン使用後は破棄されるのだろうが、実にもつたいない感じを受けた。前出の女性の高評価もスコアのみだけでなく、グリーンの高さを含めてのものだったのではないだろうか（なお、テンポラリーグリーンでの使用品種は12面が007、6面がルミナリー）。

9番でゴールドティーの造成工事を見てから、9番改造グリーン工事へと足を進める。

このグリーンでは、予定地の周辺に搬入用の資材が山のように積みあ

がっているが、先ほどのモニター上の以前のグリーンと現在造成中のグリーンの位置関係が筆者でもそれなりに把握できる。このような改造工事での、シミュレーションは有効であることが確認できた。

現在、若松GCでこのコース管理ソフト・アルバトロスを操作しているのは小川内キーパーとサブキーパー、そして、若手管理スタッフの3名で、キーパーが不在の時はサブが主に代役を務めているが、今後、さらに広げていくことを考えている。誰でも何時でも利用できるのが理想

だろう。だが、その若松GCにしても、先に記したように気象データは手入力するなど、アルバトロスの持つている機能をフルに活用してはいない。これは、コース管理用ソフトを導入しているゴルフ場でも、同様のケースが少なくないだろう。

最近、「ビッグデータ」の活用が新聞紙上で喧伝されているが、立地条件、土質、気象条件など、個々のゴルフ場で様々な違いがある。

自己のゴルフ場で独自に各種データを記録・整理することによって、そのゴルフ場に適したベントの夏越し方法が模索できるかもしれない。また、若松GCでの活用に見られるように、コース改造時にも役立つことだろう。

結構聞く話だが、なぜかコース管理関係の資料（排水管の埋設図など）は、所在不明のことがある。その改善策としてのコース管理ソフトの導入はアーカイブとしての価値もあろう。ただそれには、日々の地道な取り組みが欠かせない。

なお、アルバトロスには近く肥料関連の微量要素を含めて新機能が加わる予定である。